

柳原白蓮が教えてくれること

連続テレビ小説「花子とアン」の蓮子

講師 五十川トセさん (台東区男女平等条例をまなぶ会)

NHKの連続ドラマで評判になった「花子とアン」、花子の腹心の友として登場した蓮子、実際は柳原白蓮が注目を集めました。白蓮の人生をたどってみましょう。

白蓮の結婚・離婚と恋愛事件

「白蓮事件」が世間を騒がせたのは大正11年、大阪朝日新聞に、夫への公開絶縁状が発表され、これで大騒ぎになったのです。妻から夫への絶縁状、しかも公開絶縁状というのは前代未聞でした。この夫婦は、妻、白蓮(本名輝子)が伯爵令嬢で、大正天皇の従妹。夫、伊藤右衛門が、九州の炭鉱王で億万長者。駆け落ち相手、宮崎龍介は7歳年下の帝大(今の東大)生でした。新聞が毎日書きたてました。この事件が女性たちに与えた衝撃、勇気、希望はかり知れません。忍従するしかない女性たちが、元気をもらったということ。反面、白蓮はひどい女という抗議もたくさん寄せられました。当時は離婚は罪悪でした。しかも姦通罪というのがあり、女性には罰せられました。白蓮は離婚成立前に子どもを産んでいます。今でも、離婚後300日以内に生まれた子は前夫の子として届けられない。そういう民法が今も生き



柳原白蓮

ています。でも伊藤右衛門は「俺の子ではない」と明言したので、龍介と白蓮の子として入籍することができたのです。伊藤右衛門は離婚を承諾し、一族郎党を集めて、「この事件については末代まで、一言の弁解も無用」と言い渡しました。一代でたたき上げた人ですが、才覚と人望がなければ、成功はできないですよ。一種の人格者でした。学校をつくって、県に寄付をしたり、育英会の奨学金を作ったりと、教育にお金を使った人でもあります。生まれ育った階層、価値観があまりにも違う夫婦の悲劇だったともいえます。

昭和20年8月、戦争の終わる4日前に、学徒出陣した息子の香織を鹿児島の特攻基地で失います。その悲しみのなか、同じように戦争で子どもをなくした母たちとともに、「悲母の会」をつくりました。これが「国際悲母の会」となり、世界連邦婦人部へと発展したのです。講演で全国を回りました。日本では湯川秀樹博士が主導。平塚らいてうも一時期熱心に携わりました。

白蓮から学ぶことは

白蓮の人生は生母を知らぬ生い立ち、2度の破綻した結婚、愛児との生



講演する五十川さん

別と死別など波乱に満ちたものでしたが、社会活動、平和運動にも力を尽くしました。
私たちは白蓮の生き方に何を学びましょう。幸せな後半生は自ら闘ったものでした。どんな境遇になっても諦めず、前をめざしました。当時のふつうの女性だったら最初の結婚で諦めた人生を送ったことでしょう。伊藤右衛門と結婚してからは、お金が自由に使えるのだから、これでいいと思ったでしょう。白蓮はそうではなかった。今の生活を壊してでも、つぎの新しい人生を求めたのです。世間の犬吠に流されずに生きたのです。世間の噂に負けないで、自分の道を貫いたのが、白蓮でした。
私の最も好きな白蓮の歌を紹介して終わりたいと思います。
瞬間は稲妻のごとく来たり去る
その束の間をわれ人にして生く
瞬間は平等に与えられています。瞬間瞬間をよりよく生きていく、そのことが大事だとこの歌は教えてくれているのではないのでしょうか。

白蓮と台東区の意外なつながり
*生母奥津りょうは柳橋の芸者でしたが、お墓が谷中の妙円寺にあります。
*白蓮と伊藤右衛門の見合いが上野精養軒で行われたといわれています。
*白蓮の戯曲が上演された市村座は、猿若町から移転して下谷二長町にありました。現在の三井記念病院の斜め前あたりにあります。

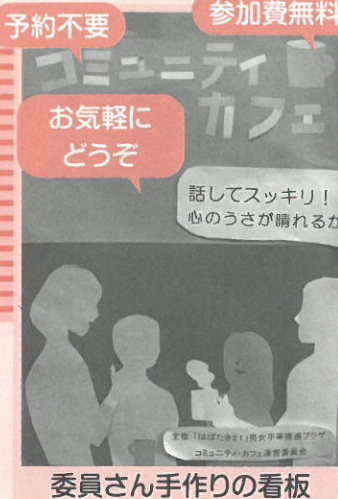
ホッとひと息 交流の場

コミュニティ・カフェ

毎月第3土曜日の午後2時から4時に開催

「コミュニティ・カフェ」の魅力を探るべく、コミュニティ・カフェ運営委員の皆さんに、エピソードなどをうかがいました。

※コミュニティ・カフェは、公募で選ばれた方がコミュニティ・カフェ運営委員となって、「はばたき21」と協働で開催している事業です。



委員さん手作りの看板



偶然×偶然の出会いが面白い!

自主映画を制作しているという大学生が参加され、なんとカフェ委員のひとり、その映画に出演することになったというエピソードも!

参加者は毎回 30人〜40人!
12年前、有志で立ち上げた頃は、数人の参加者しかいなかったコミュニティ・カフェ。徐々に口コミや広報活動で広がり、今では毎回30人〜40人が参加。イベントなどを企画したときには、60人ほどの参加者で賑わっています。

常連さんは、気前がよく気さくな人が多い

参加者の中には、自家製のハーブをもってきて、ハーブティーをふるまってくれる方、折り紙持参で参加され、サンタクロースやカエルなど、楽しい折り紙を教えてくれる方、趣味ではじめたというタロットカードをもってきて占ってくれる方など、色んな方が参加されていて、おひとりでも来られても、お子様連れでも、ほっとできる雰囲気があります。



こんな楽しいところがあったなんて、知らなかった。毎回来よう!

地域のチカラ講座の講師も参加

区民の方が講師となる「地域のチカラ講座」。その講師が、自ら講座の予告や、講座後のフォローなどに活用されることも多い。
昨年10月に開催した「ソフトパステルを使った『花色ワーク』で癒しの時間」の講師が、12月のカフェで「クリスマスアート」の描き方を教えたり、11月に開催したフットケアの講師が、足の手入れの相談を受けたりして、地域でのつながりがゆるやかに広がっています。

カフェ委員がFacebookで発信

コミュニティ・カフェ運営委員が、Facebookでコミュニティ・カフェのページを作成し、毎回カフェの様子を発信しています。こんな風に、人と人が世代を超えてつながっていける交流の場があることを、ひとりでも多くの方に知ってもらいたいと思っています。

コミュニティ・カフェ

日時: 毎月第3土曜日 午後2時~4時
場所: 男女平等推進プラザ「はばたき21」(生涯学習センター4階) 調理コーナー
主催: 男女平等推進プラザ / コミュニティ・カフェ運営委員会